

国選定 重要文化的景観「智頭の林業景観」

東山・沖ノ山の天然林



智頭林業を支えた天然林

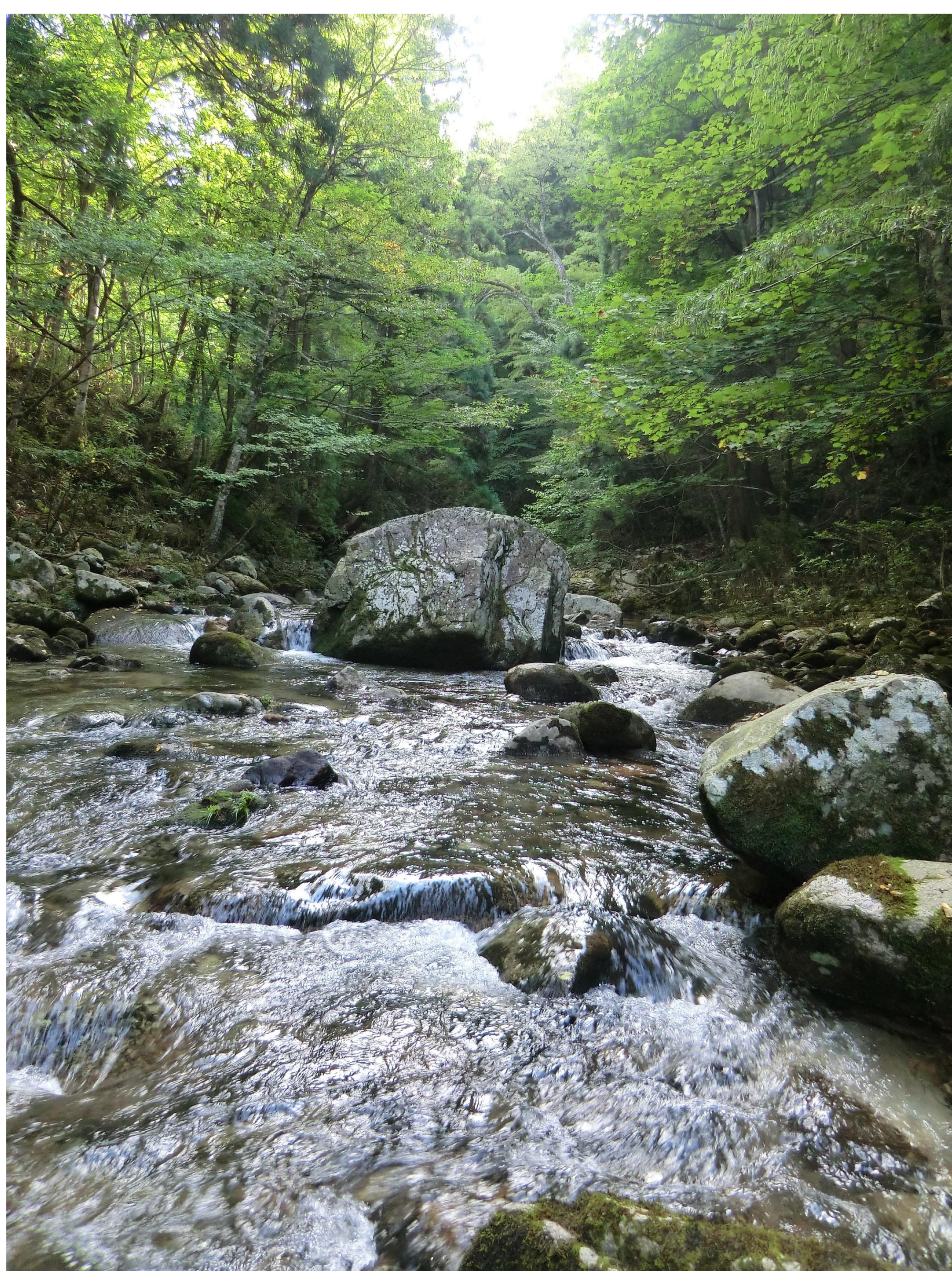
智頭の林業は豊かな天然林の恵みを受けて発展しました。智頭町を取り巻く山々の多くは人工林や里山となっていますが、芦津溪谷を含む、東山・沖ノ山には現在も原生自然的な要素が多くみられる天然林が広く残っています。

その特徴は、**日本海側の多雪地域に発達するブナやスギからなる天然林**です。左の写真は芦津の三滝ダム周辺の森林を早春に写した写真ですが、濃い緑で先端がとがった三角形の樹木が天然に生育するスギです。そして黄緑色をした広葉樹がブナの芽吹きです。東山から沖ノ山に生育する天然のスギを使って発達したのが智頭の林業です。

沖ノ山林木遺伝資源保存林

東山・沖ノ山の天然林の中で、芦津溪谷の一部が**沖ノ山林木遺伝資源保存林**として、保護されています。林木遺伝資源保存林とは、国有林の中で、林業樹種と希少樹種の遺伝資源の保存を目的に設定されているものです。

芦津では沖ノ山国有林59林班の88.16ヘクタールが指定されており、特にスギ、ブナ、ミズナラが保護する対象樹種となっています。



芦津溪谷の溪畔林

芦津の森は、ブナやスギからなる天然林ですが、溪谷部分にはトチノキやサワグルミ、シオジ、カエデ類からなる溪畔林が発達しており、秋には美しい紅葉がみられます。また、溪谷も美しく、連続する滝や巨樹も多くみられます。このことから、森林セラピーに最適の場所として、芦津溪谷の一部は約8kmにわたって芦津セラピーロードとして整備されています。